

(3) 東洋製鐵誘致運動

大正6年12月4日、市会に「東洋製鐵株式會社招致に関する件」と題した議案が提出されました。その内容は、東洋製鐵(株)の工場を福岡市付近に誘致することについて、工場用敷地の買収などに、できるだけの便宜を与え、必要に際して補償金の提供を辞さないというものです。議長の提案で、議事に入る前に協議会を開くこととなり、協議会では、福岡市付近に工場敷地を決定してもらいたいこと、福岡市は敷地買収等に誠意をもって尽力し、できるだけの便宜を与えることを同社に申し入れることを議決し、ただちに本会議を再開し改めて議案を可決しました。

東洋製鐵(株)は、第一次世界大戦の勃発による鉄の需要の急増などから、大正6年11月に創設された会社で、当時、技師を長崎、唐津、伊万里、戸畑、福岡など多方面に派遣して工場敷地を物色していました。各市の同社工場誘致運動は激烈をきわめました。特に福岡市では福岡地方の工業化を図る官民一致の福博地方発展期成会が中心となって活躍しました。

福博地方発展期成会とは、今後の福岡市の発展のために、従来の福岡市の産業である博多織等の家内工業的なもののほかに、鉄工業をはじめとする諸工業の福岡地方への誘致のため運動、後援をおこなうために大正6年6月に創立されたものです。創立時の委員には、福岡市長、市助役、市会議員、商工会議所議員をはじめとする政財界人が名を連ねていました。

同期成会の幹事らは、東洋製鐵(株)工場誘致のため、県知事に対する協力要望をはじめ、八幡製鐵所の意見聴取、上京による各方面への陳情、さらには同期成会顧問の九大教授工学博士に候補地としての香椎地区、今津地区の調査をおこなわせ、それに基づいて同社に参考書類や陳情書を送付するなどの猛運動を繰り広げました。

しかし、これらの誘致運動にもかかわらず、大正7年1月、東洋製鐵(株)の重役会は工場敷地を北九州の戸畑に決定しました。かくして、福岡市挙げての同社誘致運動はついに不成功に終わったのです。

<福岡市議会史第2巻「大正編」第二十一章 余録 東洋製鐵誘致運動 から>